2025年11月25日

名大ワンゲル部
養成合宿反省のメッセージ

谷村 省吾

名古屋大学 体育会ワンダーフォーゲル部部長

MAKE NEW STANDARDS.
東海国立大学機構
NAGOYA UNIVERSITY

メメント・モリ

- Memento mori（ラテン語）
- 「死を想え」
- 「死を忘るるなかれ」
- すべての前提

死んだらおしまい

- 自分、仲間
- 死んだらそいつの人生はそこで終わってしまう。
- 死んだら、もう何もできない。
- 生きていればあったであろう人生がそこで途切れる。
- 取り返しがつかない。
- 大勢の人が悲しむ。
- どんな事故かによるが、現役部員が部活中に事故死すれば、ワンダーフォーゲル部は廃部になる可能性が高い。

山の事故には何があるか

- 転落・転倒・滑落・落石
- 道に迷う（結果的に危険箇所に近づく、日沈）
- 熱中症（行動不能、意識状態悪化、判断を誤る）
- 低体温症・凍傷
- 病気、食中毒、やけど、疲労（行動困難、判断を誤る）
- 忘れ物、装備品の損傷・故障、食料の紛失・腐敗
- 天候悪化（視界悪くなる、風で飛ばされる、落雷）
- 川で流される、溺れる、装備を失う
- 熊、毒蛇、スズメバチ

山の事故で死亡率が上がる最大の要因

山の事故で死亡率が上がる最大の要因

- 発見が遅れる
- 発見されない（行方不明）

山の事故で死亡率が上がる最大の要因

- 発見が遅れる
- 発見されない（行方不明）
- 即死でない限り、人に見つけてもらって助けてもらえば、何とかなるケースは多い。
- 逆に言うと、重大事故・遭難の（単独）自力解決は非常に難しい。

死なないためにはどうすればよいか？

- 起きうる事故を想定して、とくに重大事故を防ぐ・避けることが最も大切。
- 自力解決不可能なときは、他人に助けてもらわないといけない。

救助にかかる費用

- アメリカでは救急車を呼んで搬送してもらうと、400～2000ドル（6万～30万円）を請求される。
- アメリカでは骨折の治療費 200万～300万円
- 個人保険がないと治療を受けられないか、医療ローン。自己破産のケースが多い。
- ドイツでは医療費は国の補助があるが、複雑骨折でも１ヶ月くらい待たされる。

幸い日本では公的機関が救助してくれるが

- 救助を要請するには正当性・誠実さが大切。
- 「やるべきことは、ちゃんとやっていました」「不可抗力でした」と言えるようにしてほしい。
- ヘリコプターを出してもらうのは相当の重大事故だと認識してほしい。

これまでは比較的ラッキーだった

- 外部組織に救助してもらうにしても、天候・地形・距離・時間帯・ケガの程度・他メンバーの体調・連絡手段などの条件が悪ければ、もっと深刻な事態に陥っていた。
- 救助隊も万能ではない。
- だから、極力、重大事故を起こさないことが大事。「危ない」と感じたら、やめる・引き返す。危険に対して敏感でなくてはいけない。

ワンゲルの責任

- 重い荷物を背負って整備されていない山道を歩き、清潔な水も店も病院もないところで寝泊まりするだけでも危険行為。
- しょせんワンゲルは課外活動であり、やらなければいけないことではない。
- やらなくてもいいのに危険なことをやるのは自由であり、責任が伴う。（命令されたことなら、命令した人が責任を負う。）

ポジティブに行こう

- 君たちはワンゲルの活動を続けて楽しんでほしい。
- そのためにはどうすればいいか？という観点で考えてほしい。
- 養成合宿中の事故でよかったとも言える。経験値を上げることができた。
- 反省から教訓を汲み、改善のアイデアを出し、実践してほしい。

私が現役部員だったときは

- 私が１年生のとき、優しいが、めちゃ真剣な３年生先輩がいた。
- 当時は夏長（夏合宿委員長。事故対の一員。自分は夏合宿に行かず、約２週間名本をやる。当時は固定電話に貼り付き）と春長という役があり、その先輩が夏長だった。
- それでも夏に事故が多発（SLが直径１メートルの落石に当たって脚を折った、CLが疲労で行動困難、テント内でバーナー炎上、テント焼失・メンバー火傷）全パーティ下山命令。
- 大反省会
- それでもその後、行動自粛はしなかった。（私が2年生のとき、SLがマムシに噛まれる事故はあった。）

チャレンジ精神はよいが

活動域を広げたいという精神はよいが、

- キレット
- ロッククライミング
- 雪山（私も４回行って、４回目は遭難寸前だった）
- 沢登り、川下り（洞窟はやめておいたほうがよい）
- 外国の山

などはとくに慎重に。相当の準備・訓練。

谷村のアイデア

- 年度内に養成合宿は再開した方がよい。
- CL権・SL権を持つ人は多ければ多いほどよい。意識・知識・経験が安全性を高める。
- たとえば、2泊３日できつめの養成合宿を１回でもいい。１パーティにCL挑戦者が２人いてもいい。CL挑戦者の片方がサブ顧問として「人の振り見て我が振り直せ」するのもいい。

君たちもいろいろ考えられるだろうから、やってみてほしい。